

波紋



Ripple

No. 339号

文紙メッセ2013

@マイドームおおさか

昨年に引き続き、8月8、9日とマイドームおおさかにて開催された文紙メッセに参加しました。今回も自社商品であるカッティングマット、捺印マットの展示、そしてテーブルマットのご紹介もさせていただきました。また夏休みということもあり、多くの主婦や学生の方々がご来場され、消費者側からの視点での貴重な声を聞くことができ、大変参考になる2日間でした。

小原龍一（営業部）



を間こは面ていモでグ変れをのに人 なりて持て己不からたが良て見先
保もと思そるうノきをわ替考年言間年 ないちき管摂からがいたいと見ると
つ企でいのかこにてうきをわつわえ月うで代りまこうたのが生夜振りと
て業そま時とと出いましてりてを企いう言。思。思。い。日。感。す。の。ま。生。活。年。の。結。果。が。直。早。く。も。改。善。に
いき年の代会人方よ人思んまれと、で命ろ森も 来活。年。の。結。果。が。直。早。く。も。改。善。に
きたを代に社材法う材いすれ。た。つ。少。々。の。し。得。る。意。先。の。取。扱。上。米。品。は。理。由。倍。
たいを合自にも。が。ま。こ。合。確。存。が。の。松。還。も 年。習。慣。を。健。康。い。く。つ。安。年。か。あ。り。足。等。
いもの毎に環境に 新。た。な。し。の。形。変。り。あ。り。あ。る。私。反。育。と。を。続。ン。も。入。由。倍。
です。境。に。対。応。し、と。革。が。り。か。が。出。来。た。そ。の。一。般。的、

先日、例年通り受診している健康診断の結果を
見ると尿酸値が増加も無く、むしろ調子が
良いと思っていた矢先の結果。最初は驚きまし
たが、振り返ってみると飲酒の習慣（飲み過ぎ）
から夜遅くの食事のタイミング、睡眠不足等、
不摂生が祟ったのだと感ずる大切なるポイント
が管理が大切です。日々の生活習慣（飲み過ぎ）
が健康に直結する。早くも改善に自分
が気づいた。健康に直結する。早くも改善に自分

健康であり続けるために

社長 森 直樹



変えても同じだが

光田 昭男（企画営業部）



2年前になるが、飛距離をもとめて価格は高いが流行りの地クラブを買ってしまいました。またまた買い換えても結果は同じと解っているが、自分のパワーのなさを感じ寂しいが簡単に飛ばせるドライバーに変えてしまった。地クラブを10万円で購入した覚えだが、買い換えた当時はがんばるぞと燃えており練習も欠かさず頑張っていた。しかし今では練習ゼロの怠け者になってしまっている。練習ゼロには簡単なクラブが良いと思変えてみました。変えたのは、仲間からやめると言われているおやじのクラブ、ゼグシオ7。皆さんがご存知のゴルフ5でゴルフ診断。ゼグシオを試打。数回の素振りを済ませて計測したところ、打球は真っすぐで距離は220ヤード！思わず聞いてしまった。「これいくらですか？」「ちよつと待って下さい。」電卓をはじく店員のおやじさんが「54000円です……」。「モデルチェンジはあるの？」「しばらくは無いですよ」と……購入するつもりは無かったのだが「9.5度 Sありますか？」と言っている自分がいた。54000円は高いと感じてもつたいたいと迷ったのだが、なぜか購入してしまった。新しいクラブを購入するとわくわく感がいっぱいなのだが、今回はなにも感じなかった。どちらかと言えば寂しさを感じていた。経験上古いクラブは残していても使用しないことが多い、価値がある時に売却した方が良いと思いいクラブ買取りへ持って行き査定してもらったところ、15000円。うん、安いのではないかと交渉するクラブは、カミイの特注品で今でも人気があるクラブ。ネットでの下調べではヘッドだけでも35000円はすることを確認していた。交渉をしたところ、どの位の金額にすれば良いのか聞かれて20000円と言うと解りましたとなり、20000円で買取してもらった。出費は34500円になった。もつたいないなと今でも思っている。ゼグシオ7がんばってみよ。

言葉の持つ凄まじい力

大石 耕平（東京オフィス）



先日読んだフリーペーパーのコラムに面白い記事がありました。人は同じ言葉を何度も繰り返されると、その言葉通りの人になります。というもの。例えばプロスポーツ選手は、よくメンタルトレーニングをしています。車椅子テニスで世界ランク1位の国枝慎吾さんは、メンタルトレーナーから、レストランや毎朝鏡の前で「俺は最強だ」と叫ぶように命じられたそうです。全豪の期間中、選手用レストランで「オレは最強だ！」と叫びなさいと命じられた。恥ずかしかったが、大声で叫ぶまで許してくれそうもない。仕方なく声をはりあげた。毎朝鏡の前でも叫んだ。これが続いているうちに、弱気な自分が消えていくのがわかった。その年の5月、彼はジャパンオープンで初優勝した。全米オープンにも勝ち、秋には念願の世界ランク1位に。「こんなにも変わるんだ」と自分でも驚くほどだった。と、彼は言います。（朝日新聞GLOBE Breakthrough - 突破する力 国枝慎吾から引用）そしてネガティブな言葉は、ネガティブな人を作ります。明るい人でも、1日何十回も否定されつづけ3ヶ月もすると立派な鬱病患者ができてきます。また健康な人に対して「顔色悪いね」というと、本当に体調が悪くなってしまうそうです。気分が優れない時に体温を図って、高熱であることを確認するとさらに元気がなくなったりします。今までは、何だか体が熱いなー、くらいだったのに。つまり、言葉に心が引つ張られ、体にも影響を及ぼすわけです。その言葉が真実とは異なった場合でも。では彼女に「かわいい！」と言いつつどうなるか？彼女が彼女自身のことを、あまりかわいいと思っていないなかつたとしてもその彼女に対して、「かわいいね」という言葉をかけ続けるとどうなるでしょうか？おそらく、最初は「そんなことないよー。何企んでるの笑」と謙遜の言葉が続きます。ですが、次第に「かわいい」という言葉に慣れてきます。そして化粧をしたり、お洒落に気を遣うようになり、雰囲気もどことなく明るくなってきます。その変化に伴って、他にも彼女のことを「かわいい」という人が増えてきます。そうすると、彼女は運動をして食事を遣うようになり、スタイルも良くなってくる。正のスパイラルに入り、彼女は更にかわいくなっていくそうです。言葉やイメージが先にきて、そのあとに実態が追いついてくるのです。芸能人やモデルが、かわいかったり美人であるのは、元々そういう素質がある人を雇っていることも大きいのですが芸能活動をする事で周りからチャホヤされて、それに影響を受けて本人が努力し、よりかわいく美人になっていくものだと思います。私もお客様と打ち合わせに入る前に、トイレで「月1000万！」10回は目標を心の中で叫ぼうと思います。

ソースかつ丼

伊藤 雅典 (森松産業)



先日、妻と娘夫婦を連れて白樺湖へ行って来ました。妻の職場ではソースかつ丼を信州方面へ食べに行くことが流行っているらしく、一度食べに行きたいということで、駒ヶ根インターで高速を降り食べて来ました。入ったのは食事・喫茶ガロという店です。夕方の営業は17時からというのに16時半に目的地についてしまったので早く着きすぎたと思いきや開店前から長蛇の列。開店と同時に満席。席に着いて待つこと30分やっと待望のソースかつ丼が運ばれて来る。そびえ立つ山の様なヒレカツを見た時には驚かされました。すごいボリュームで、妻は食べきれずにカツを持つて帰る有様でした。ところで丼物を日本人が食べるようになったのは19世紀以降のことで意外と歴史は浅いようです。日本の伝統的な食事は、ご飯とおかずが別々に配膳され、それぞれを一口ずつ食べるスタイルでした。おかずをご飯にのせることは日本では行儀作法の上から好ましくないとされてきました。しかし、近代に入ってご飯をゆっくり食べていられなくなり、その結果丼物が登場して、古くから伝わった食事の様式が崩れてしまったようです。丼物の元祖といえは鰻丼。その後牛丼、親子丼、卵とじかつ丼と種類がどんどん増えて行きました。最近流行のB級ご当地グルメでも、丼物は無視することができません。ソースかつ丼のルーツは、大正時代早稲田大学の学生が早稲田鶴巻町にあった「ヨーロッパ軒」で、井ぶりご飯の上にカツをのせソースをかけたのがはじまりといわれ、伊那市では昭和の中ごろにソースかつ丼がはじまっています。平成になって駒ヶ根市で駒ヶ根ソースかつ丼会が発足して以来、信州のソースカツ丼の名前は天下に鳴り響くようになってきました。

信州方面へ行かれた時には一度ソースかつ丼を食べてきてはどうでしょうか。ちなみに我々の行ったガロは駒ヶ根インター下車3分とたいへん行き易いところですよ。



最近のお楽しみ

小原 龍一 (営業部)



5歳になる長男がまだ一人で自転車に乗れないので、一人で自転車に乗れるように自転車の練習につき合っています。練習をするにあたって護身用のプロテクター(手・肘・膝・ヘルメット)を自宅付近のホームセンターで購入しました。蒸し暑い天気の中での練習もあり、プロテクターを身に装着するだけでも汗が出てきます。練習で使用する自転車は長男が2歳の時に購入した補助輪付きの自転車です。今まではあまり乗る機会もなくタイヤの空気もほとんど入っていない状態で自宅の駐車場に置きっぱなしにしていました。二人で一緒にタイヤに空気を入れて、工具を使い補助輪を外した後にいざ練習スタート。初めて補助輪が付いている感覚で乗っているのですが、本人は補助輪が付いている感覚で乗っているのでも、自転車を漕ぐ横で私は長男がこけないように、20mくらいペダルを漕いだところから私の背中からも大量の汗が出てきました。やはりこの時期に練習するのは、辛いと感じました。本人はうまく乗れないので悔しくて何度も泣き出し「もうやめる」と聞いても、泣きながら「やめない!」と言っただけでも同じことを繰り返してきました。ようやく乗れたのは1週間後の事で乗れた時の笑顔は今でも記憶に残っています。せっかく乗れるようになったので、週末に通い慣れた「大高緑地公園」へ二人で自転車で行ききました。車の往來が比較的少ない道を選びながら、前方で自転車を漕ぐ私の後ろで懸命に小さなペダルを力いっぱい漕いでおりました。途中で小さな虫とお花を見つけては一時休憩し観察、水分補給もしながら約40分間かけて公園にたどり着きました。まだハンドルの操作が安定していないので、どこか危なっかしさもありますが、今後は自転車で乗る機会をどんどん増やして一日でも早く無難に乗れる日が来ることを楽しみにしています。

